

[7] 小林市小体連

(学校数12校 児童数2070人)

【研究部のあゆみ】

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力の育成を目指した、指導と評価の一体化を通して～

2 主題設定の理由

小林市小体連では、体育科における「ネット型ゲーム」及び「ネット型」の学習を通して、生涯にわたって運動に親しむための基礎的な資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開の工夫を令和4年度から4年計画で行ってきている。

研究1年目では、体育振興指導教員を講師として招聘し、「ネット型ゲーム」における指導の在り方について学んだ後、市内各小学校において、実践を行った。その際、自分やチームの課題を主体的に捉え、仲間と対話しながら解決に向かう過程を大切にするために、各チームでタブレットPCを活用し、動画撮影・視聴を含んだ授業展開を行った。

さらに、「ネット型」における体育科学習の指導法について理解を深めるため、授業研究会を行い、ここでも主体的・対話的で深い学びを実現するためのツールとして、タブレットPCが有効であることが共通認識できた。

研究2年目では、前年度の成果をもとに、さらにタブレットPCの効果的な活用の仕方を深めていく方向性で研究を進めた。各学校において、体育主任が中心となり、教師側が設定したねらいや指導内容、作戦シート、評価方法等をPowerPointに反映した「デジタル学習カード」を作成した。単元終了後の意識調査から、「デジタル学習カードの活用を通して、技能のポイントが分かり、自分の成長や課題を実感することができた」と、95%以上の児童が肯定的に捉えていることが分かった。評価を通して児童の気付きや変容を可視化し、それを学習活動に生かすことは、授業の質の向上にも繋がった。

また、共生の視点に立ち、キャッチを認めたり、プレイに応じて得点を変えたりするなどして、規則を工夫した。全員が得点できたときには、多く加点されるようにし、運動に対する主体性をもたせ、全員参加を促した。授業研究会においては、体育振興指導教員に立ち位置と役割の関連やICTを活用した指導方法について助言をいただいた。

さらに研究3年目は、令和6年度県学校体育研究発表大会で授業発表を行い、ネット型ゲーム「ソフトバレーボール」の単元の学習における指導と評価の一体化、主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用、共生の視点に立った指導内容の充実について実践のまとめを行った。

その際、指導と評価の一体化を図るために学習状況を判断する目安を作成したが、想定した児童像が抽象的だったため、実際に活用するには不十分で、上手く活用ができなかった。

そこで、研究4年目になる今年度は、これまでの実践をもとに、具体的な児童像を示した学習状況を判断する目安及び手立ての作成を行うことにした。

3 研究の内容

- (1) ゲーム、ネット型ゲーム、ネット型における、新たな評価基準表の作成
- (2) 小林市小体連授業研究会の実施、検証

4 研究の実際

- (1) ゲーム、ネット型ゲーム、ネット型における、新たな評価基準表の作成

昨年度作成した、学習状況を判断する目安をもとにソフトバレーボールの実践を各学校で実践した。その際、児童に対して行った具体的な手立てをもとに児童の評価を行い、新たな評価基準の作成に取り組んだ。

実践をしていく中で、指導の手立てにおいて、どのような問いをするか、どのような視点で動画を視聴、撮影させるかなど、児童の実態によって多岐にわたる内容となった。

そのため、これまでの各校での授業実践をもとに、12月に行われる授業研究会における児童の実態に合う手立て、児童が練習を行うための見本動画の作成を行うこと、当日の指導と評価の一体化を目指した。

中学年 (ネット型ゲーム)	▶	コート内でのボールの触球回数、得点の入り方などの規則を選んでいる。	コート内でのボールの触球回数、得点の入り方などの規則を自分やチームの特徴に応じて選んでいる。
	▶	自分とチームの友達との連携を踏まえた作戦を選んでいる。	自分とチームの友達との連携と、相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んでいる。
	▶	難しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。	難しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫や声を掛け合う連携などいろいろなよいプレイを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。

【枠内にあった手立てを具体化し、新たに作成】

- (2) 小林市小体連授業研究会の実施、検証

- ① 授業者 : 小林市立細野小学校 村岡 明日香 教諭 (4年生)
- ② 日程 : 8月29日(金) 指導案検討会、動画作成
12月9日(火) 小林市小体連授業研究会実施

5 授業研究会までの研究結果と考察

- 昨年度の学体研における指導案、作成物をもとに小林市小体連で再検討を行ったことで、ソフトバレーボールの指導理解、評価の在り方について考えを深めることができた。
- どの学習單元においても、明確化された評価基準があることで指導をする教師側が、児童の実態に応じて指導ができるよさを実感した。
- 評価基準があっても目的に応じた指導方法は多様であるため、今後も、指導と評価の一体化を前提とした他の領域における様々な授業実践を行うことで、指導力、児童の力を付けていきたい。